

かわせみ(日高市の鳥)

August 2014

29号

<http://www.saitama-med.ac.jp/kokusai/index.html>

埼玉医科大学

国際医療センターニュース

SAITAMA INTERNATIONAL MEDICAL CENTER NEWS



馬：はるかちゃん作



ゆらゆらにわとり：ともかちゃん作



ゆらゆらDonald：つばさくん作



ゆらゆらさかな：さとみちゃん作



キリン：れいなちゃん作



うま：ゆすかちゃん作

●院内学級「たんぽぽ」の子供たちの作品です。

基本理念：患者中心主義のもと安心して安全な満足度の高い医療の提供を行い、かつ最も高度の医療水準を維持するよう努めます。

使命：当センターは、埼玉県全域を範囲とし、がん、心臓病に対する高度専門特殊医療に特化し、かつ高度の救命救急医療を提供します。

基本方針：上記の理念に従って患者中心主義(patient-oriented)を貫き、あらゆる面で“患者さんにとって便利”であることを主眼とし、患者さんひとりひとりにとって最も適切な医療を提供致します。

患者さんの権利：当センターは、全ての患者さんには、以下の権利があるものと考えます。これらを尊重した医療を行うことをめざします。
(1)ひとりひとりが大切にされる権利 (2)安心して質の高い医療を受ける権利 (3)ご自身の希望を述べる権利
(4)納得できるまで説明を聞く権利 (5)医療内容をご自身で決める権利 (6)プライバシーが守られる権利

Your HAPPINESS Is Our HAPPINESS

<核医学とは？>

核医学科は、国際医療センター開設と同時に当時最新鋭のSPECT/CT装置1台とPET/CT装置2台、サイクロトロンおよびPET用薬剤合成施設を備えてスタートしました。放射性医薬品という放射線を出す薬剤を利用して診断や治療をする部門です。開設後8年経った現在では、病院も大きくなり、沢山の検査依頼があって、毎日フル稼働の状態が続いています。

<古くて新しいSPECT/CT検査>

SPECT検査の歴史は長いですが、CTを一体として組み込んだSPECT/CT装置が最近大病院で普及してきました（図1）。当院では、脳や心臓の血流を測定し、治療の必要性や治療効果を評価する脳血流や心筋血流SPECT検査が数多く行われています。がんでは特に骨転移を評価する骨シンチグラフィ・SPECT検査が多くなっています。病院の需要に応えるため、新たに画期的な最新鋭SPECT/CT装置の追加導入が今年度計画されています。

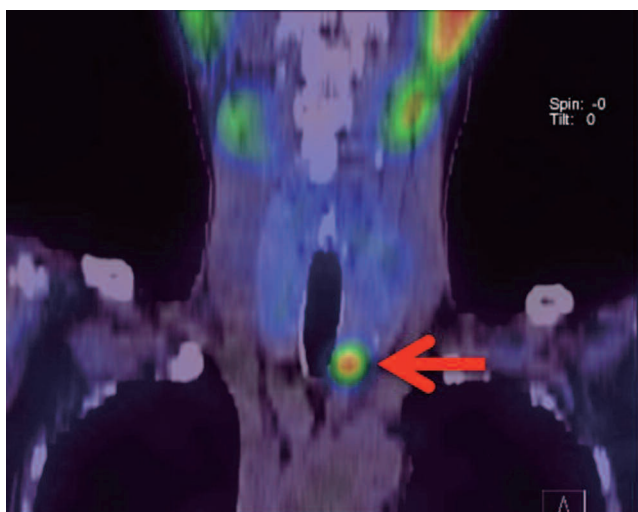


図1. 副甲状腺シンチグラフィ（SPECT/CT融合画像）
左下頸部の副甲状腺病変（赤矢印）に集積が明らかです。

<急速に普及するPET/CT検査>

当院では、サイクロトロンという加速器にて放射性同位元素を生成し、複数のPET用検査薬を合成しています。開院時のFDG-PET/CT検査の適応は比較的限られた悪性腫瘍でしたが、現在ではほぼ全ての悪性腫瘍へ適応が広がり、悪性腫瘍の種類を気にしないで検査が行えるようになっていきます（図2）。さらに、アミノ酸PET製剤や脳アルツハイマー病PET検査薬の国内治験が行われています。新しいPET検査が日本で保険適応となる日も近いでしょう。

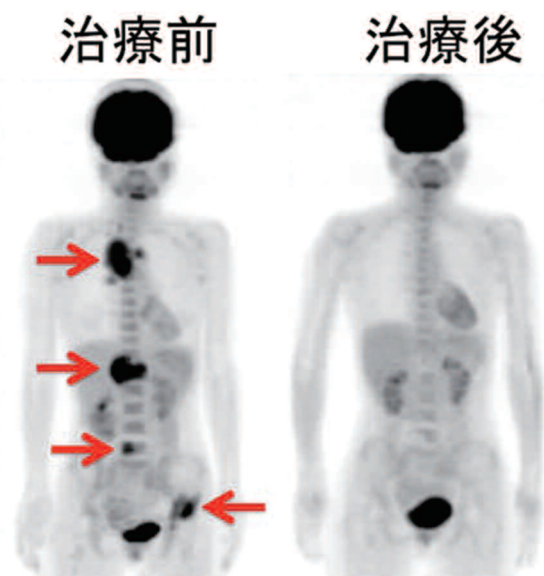


図2. FDG-PET画像
悪性リンパ腫病変（赤矢印）が治療後に無くなっています。

<核医学治療>

初めて聞くと恐ろしい印象を受けるかもしれませんが、注射するだけで終わり、自覚する副作用も乏しいため、楽な治療です。当院では、骨転移の痛みを緩和するストロンチウム-89治療が多数行われています。

<専門家集団>

核医学検査や治療は、確実に施行するための管理や準備など目にみえにくいところで手間がかかっています。医師、看護師、放射線技師、薬剤師、サイクロトロン運転員など当院核医学には各分野の専門家がそろっているので、高度な専門医療が提供できるのです（図3）。



図3. 核医学部門スタッフ
大勢の専門スタッフの協力で核医学診療が行われています。

<麻酔って>

「麻酔って患者さんを眠らせるだけでしょ?」「患者さんを動かなくしているということでしょ?」このように思われる方も多いのではないのでしょうか。確かに麻酔科医の主な仕事は、手術のために患者さんを苦痛から解放し、外科医に良好な手術野を提供することといえます。しかし近年ではその外に、麻酔方法や管理は患者さんがどのような回復過程をたどるか、つまり術後合併症の発生率や長期予後、がんの再発率などに反映されるといって報告が多数みられるようになってきました。麻酔管理、周術期管理によって、患者さんの状態が大きく変わる可能性があるのです。私たち麻酔科医はこうした論拠を基に、日々きめ細やかな麻酔管理を心がけています。

毎朝のミーティングでは、看護師、薬剤師、臨床工学技師とともに患者さんごとの管理上の方針や注意点について話し合います。また医療事故の予防、医療安全には常に細心の注意を払っています。手術室前では必ず患者さんと向き合い、ご本人確認のほか、同意書や手術部位、現在の状態確認を関係スタッフ間で行います(図1)。

<埼玉医科大学国際医療センターの特徴>

埼玉医科大学国際医療センターは、年間多くの手術件数をこなしており、平成25年度の手術件数は6195件でした。当院では、包括的がんセンター部門、心臓病セ

ンター部門、救命救急センター部門からなる700床の病床を有し、質的にきわめて高い高度先進医療を提供しています。したがって、手術も各種がんの大手術、心臓大血管手術、脳血管病変や外傷などの緊急手術が多いのが特徴で、麻酔に関しても、それぞれの専門手術に応じた高度な技術を要する全身管理が必要とされます。当院麻酔科では、各種外科系全身管理のうち、各人の専門分野、得意分野を重んじる体制を採っています。たとえば、心臓血管手術では超音波装置を駆使するなどして(図2)外科医と良好なコミュニケーションをとりながら管理します。

<手術後の痛み管理と集中治療>

今年度から、医師(麻酔科、外科、精神科)、看護師、薬剤師、臨床工学技師らからなる術後疼痛管理チームを発足させました。患者さんにとっては、手術の後の痛みがたいへん気になるところです。当院では硬膜外ブロック(図3)のほか各種神経ブロック(図4)を積極的に施行し、手術後の痛み管理に留意しています。

さらに中央手術室に隣接するハイケアユニットや院内ICUにおいて、重症患者や大侵襲手術患者の術後全身管理を麻酔科が主体的に支える周術期管理体制を構築することで新しい麻酔科の組織化を目指し、地域に貢献したいと考えています。



図1 手術前での患者さん確認



図2 経食道心エコーを用いた観測



図3 硬膜外ブロックの施工



図4 超音波装置を用いた末梢神経ブロック

「ありがとうメッセージ」をいただいて

看護部

患者さんやご家族の気持ちが私たちの活力です！ B棟4階病棟 看護師長 市岡 道枝

開設当初から、患者さんやご家族からの多くのありがたいねぎらいの言葉や、時に厳しいお言葉をいただき、日々頑張っています。

わたしたちB棟4階病棟は、平成25年度「ありがとうメッセージ」の投稿結果が第2位となり、表彰していただくことができました。入退院やベッド移動が多い忙しい病棟ですが、これまでいただいた多くのメッセージで、スタッフ皆心温まる思いで一杯になりました。入院中は言えなかった事も、退院するときに、スタッフとのやり取りを細やかに綴って下さり、思いを打ち明けていただけたこと、スタッフに「ありがとう」の言葉を下さったこと、また頑張ろうという気持ちになりました。

B棟4階病棟脳卒中センターでは、脳卒中治療後も、後遺症のためにリハビリを必要とする方や、予防のための治療を行い、後遺症なく数週間後に今まで通りの生活を送られる方など、様々な病状や経過

の患者さんが入院されています。不安を抱えながらも治療を前向きに考え、病気に向かい合う努力をされている様子や真剣にリハビリに取り組む姿勢には、逆にわたしたちが励まされることもあります。

患者さんは、病気を抱え不安や緊張した状態にあり、入院生活ではストレスを感じています。また、それを支えるご家族も同様です。面会に来られた時には、短時間ですができるだけご家族の気持ちに寄り添い、声をかけたり、お話を伺ったりすることで安心して療養していただけるようにしていきたいと思っています。

わたしたちは患者さんやご家族の気持ちを親身に考え、丁寧に接することが、患者さんとの信頼関係確立に近づく第一歩だと考えています。これまでいただいたメッセージを原動力として、病棟スタッフ全員がますます患者さんに寄り添える看護ができるよう努力してまいります。



脳血管治療科、リハビリテーション科スタッフ：合同カンファレンスでは治療方針や自宅退院に向けた話し合いが行われています。



病棟：4月から一般病棟とハイケアユニットの2部署に分かれましたが、多機能を備えステップアップしています。



病棟スタッフ：私たちも患者さんやご家族から元気を頂いています。

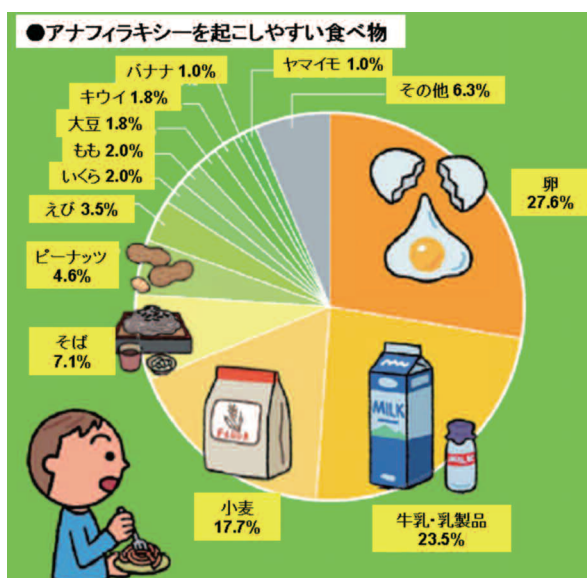
Your Happiness Is Our Happiness



病棟：表彰状は、いつも見えるところへ飾っています。

アナフィラキシーとは、アレルギーの原因物質（アレルゲンまたは抗原）に触れる、あるいは食べたり飲んだりした後、数分から数時間以内に複数の臓器や全身にあらわれる激しい急性（即時型）のアレルギー反応で、血圧の低下や意識障害などショック状態に至ることがあり（アナフィラキシーショック）、時には生命を脅かすこともあります。厚生労働省の人口動態統計の集計によると、日本におけるアナフィラキシーによる死亡者数は50～70人程度（年間）となっています。

アナフィラキシーの症状はさまざまで蕁麻疹、赤み、痒みなどの「皮膚の症状」、くしゃみ、咳、ぜいぜい、息苦しさなどの「呼吸器の症状」、目の痒みやむくみ、唇の腫れなどの「粘膜の症状」、腹痛や嘔吐などの「消化器の症状」、血圧低下など「循環器の症状」があります。これらの症状が複数の臓器にわたり全身性に急速にあらわれるのが、アナフィラキシーの特徴です。



アナフィラキシーを引き起こす主な原因は、食べ物他に、薬（抗生物質、解熱鎮痛薬、ワクチン、造影剤、麻酔薬など）、昆虫（スズメバチ、アシナガバチなど）などです。ハチによる被害は、活動が活発になる夏から秋にかけて多く報告されています。

アナフィラキシーの治療法は症状によって異なります。ショック症状（ぐったり、意識障害、失禁など）やのどの強い症状（のどが締め付けられる感じ、声がれ、声が出ないなど）、呼吸器系の強い症状（強い喘

鳴、呼吸困難など）があらわれた場合には、速やかにアドレナリン自己注射薬（アナフィラキシー補助治療剤：以下 エピペン®）の皮下注射を行い、呼吸や血圧の管理が必要になります。そして仰向けで寝かせ、足を高くして楽な姿勢にします。嘔吐があった場合、顔を横に向けて、吐いたものをのどに詰まらせないようにしましょう。

●アナフィラキシーが起こったときに用いられる薬



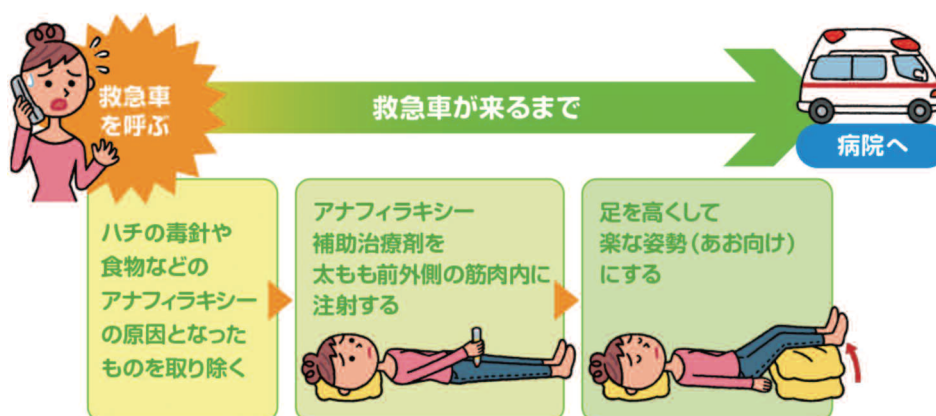
過去にアナフィラキシーショックを起こしたことがある、もしくは、起こす危険性があると医師が診断した場合は、エピペンが処方されますので緊急時に備えてエピペンを常に携帯しておくことをお勧めします。

エピペンはあくまでもアナフィラキシーの補助治療剤であり、根本的に治療するものではありません。エピペン注射後は直ちに医師による診察を受ける必要があります。

埼玉医科大学では、埼玉医科大学病院のアレルギー喘息センターで専門医師による診断、処方が受けられますのでご相談下さい。

参考資料

ファイザー株式会社 <http://www.epipen.jp/top.html>



放射線治療室内にある「照射室前の廊下」には、二つの椅子が設置されています。

それぞれ、二台ある照射装置と同じ、①及び②の番号が振られており、照射を担当する診療放射線技師が、待ち合いで待機されている患者さんの中から、間もなく照射となる患者さんを、持参された「治療カレンダー」を確認の上、照射装置毎に一人ずつご案内しています。

治療に用いられる放射線は、検査用の放射線と比べ大変強い力を持っており、患者さん毎に予定された「医師の照射指示を間違えることなく正確に」そして必ず「ご本人」に対して施行する必要があります。



写真2. 番号の付いた椅子

照射室前廊下にある二つの椅子は、照射装置にプログラムを読み込んだ患者さん「ご本人」が、決して他の患者さんとは入れ替わることなく、安全に治療が行えるように考えられた、照射順番が近づいた患者さんだけが座れる「特別な椅子」なのです。

放射線治療室では、この他にも治療前に患者さんの氏名（フルネーム）や生年月日を毎回教えて頂くなど、安全な放射線治療を実施するため、数多くの工夫を行っております。皆様には煩わしいと感じるかもしれませんが、どうかご理解・ご協力の程、お願い申し上げます。

※放射線治療に関するご質問は、放射線治療室のスタッフまで何なりとどうぞ。



写真1. 放射線治療照射室前の廊下

2014年4月1日

皆様のご本人確認について

皆様のご本人確認として

フルネームと生年月日

を、教えて下さい。

○日々の放射線治療、大変お疲れ様です。

○当センターにおける患者さんご本人の確認方法として、**毎回の照射前に**、「氏名」と「生年月日」を頂戴致します。

○毎日の照射に対し、煩わしいと感じられる方もいらっしゃるかと存じますが、安全な照射を行うため、何卒ご協力の程、御願い申し上げます。

放射線腫瘍科・放射線治療室

写真3. ご本人確認をお願いするポスター

輸血医療を支えているのは？

輸血・細胞移植部

皆様の善意で行われています

臨床検査技師 渡辺 保加

輸血療法は副作用のイメージが先行して敬遠されがちですが、適正に行われた場合には極めて有効性が高い治療法で、医療技術の進歩・高齢者の増加により輸血の需要は増えています。

<全身を巡る血液>

血液の量は体重の約13分の1です。血液には様々な細胞や役割があります。

たとえば、赤血球の主な働きは肺で酸素を取り込み、酸素を全身へ運搬します。寿命は120日。骨髄で産生された赤血球は約120日間体内を循環して酸素を運んだのち、脾臓等で破壊されます。健常成人の場合350～500万個/ μl あります。また、血小板や凝固因子は、出血を止めるための役割を持っています。

<輸血が必要になる時って？>

出血や病気などいろいろな原因で血液中の成分が少なくなると、息苦しさや、出血が止まらなくなるといった症状がでます。また、出血により一定以上血液が失われると臓器に酸素が届かずショック状態に陥り生命を脅かします。そのような症状の改善や救命のために輸血が必要となります。

<血液製剤の種類と役割>

日常で主に使用する製剤は大きく分けて以下の3種があります。

赤血球液(RBC)・・・大量出血時や慢性的な貧血時など、末梢循環系に十分な酸素を運搬するため
濃厚血小板液(PC)・・・血液疾患などの血小板が減少する病気により、出血傾向が強い時、止血・出血予防のため
新鮮凍結血漿(FFP)・・・肝障害や血液凝固因子の欠乏・減少時など凝固因子を補充するため

輸血製剤の半数以上は、がん患者さん、血液疾患の患者さんに使用されています。

<血液製剤による感染のリスク>

感染などの輸血副作用リスクを防止するため、献血者の体調、渡航歴、薬歴、問診等の聞き取り調査を十分に行います。次に献血された血液は血液型、不規則抗体、HCV、HIV、梅毒などの感染症の有無を検査し、合格した血液が患者さんの元へ届きます。(感染症検査の感度、特異性や信頼性は、現在の水準のもとでは最善の方法で検査されています。)

<献血された血液の行方は？>

献血された血液は赤十字血液センターへ運搬されて検査、製造、保管されます。24時間365日対応できる体制が整えられており、病院が血液を必要とする時に素早く対応して頂けます。

当院の輸血数は開院から年々増加していますが、医療において欠かすことの出来ない輸血は、ボランティアの方々の献血によって支えられています。

5月に日本赤十字社より献血バスが埼玉医科大学国際医療センターにやってきました。当日は、職員や学生を含め100人前後の協力が得られました。

(写真下)



献血にご協力ください

埼玉県内では、1日700人のご協力が必要です。

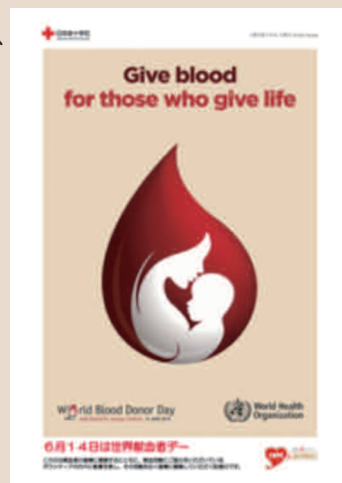
(埼玉赤十字血液センターHPより)

コーヒープレイク

6月14日は世界献血者デーです。この日は、献血を行う人々への日頃の感謝と敬意を表し祝すこと、また献血及び安全な血液の重要性を認識することを目的に、世界各地においてキャンペーンが行われました。

2014年のテーマは、
Safe blood for
saving mothers

”お母さんに安全な
血液を”でした。



<脱水は夏バテの原因の1つ>

夏の高温・多湿な
気候が続くと、多量
の汗をかくことで、

**疲れやすくなる・食
欲が落ちる**といっ

た、いわゆる夏バテ
と言われる体の変調
が起こりやすくなり
ます。その原因の1
つとして、自律神経
のバランスが崩れる
ことによる胃腸能力
の低下・食生活の乱

れからの栄養不足等による脱水が挙げられます。日
常的な対策には、**十分な睡眠と規則正しい生活、バ
ランスの良い食生活**が第一です。その上で、こまめ
に水分を補給することで、脱水を予防できます。



<体の水分>

成人では1日に約2000～2500mlの水分を失ってい
ます。そのうち、汗や呼吸などから無意識のうちに
失われている水分は、体重60kgの人が平熱、室温
28℃の環境で1日に900mlと言われており、体温が1
度上昇すると約15%増えます。このため、気温が上
昇したり汗をかいたりしたときは、脱水に注意が必要
です。

体に入る水分量

食 物 1000ml
飲料水 1200ml
体内で 作られる水 300ml

体から出る水分量

尿 1500ml
大便 100ml
汗や呼吸 900ml

<暑さ指数を参考に脱水を予防しよう>

脱水は熱中症の原因にもなります。日常生活の中
で熱中症を予防するために、環境省が夏季のみ発表
している「暑さ指数」を参考にしましょう。暑さ指
数は、単位は気温と同じ摂氏度（℃）で示されます
が、その値は気温とは異なり、湿度や日差しの違い
を考慮した、よりの確な熱中症予防情報となってい
ます。

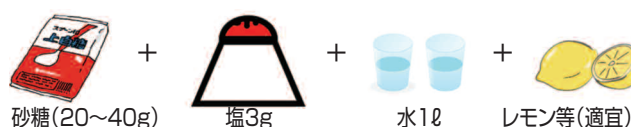
暑さ指数	参考気温	注意すべ き生活活 動の目安	注意事項
危険 (31℃以上)	35℃以上	全ての生 活活動で 起こる危 険性	高齢者においては 安静状態でも発生 する危険性が大き い。外出はなるべく 避け涼しい室内に 移動する。
厳重警戒 (28～31℃)	31～35℃		外出時は炎天下を 避け室内では室温 の上昇に注意す る。
警戒 (25～28℃)	28～31℃	中等度以 上の生活 活動で起 こる危険 性	運動や激しい作業 をする際は定期的 に十分に休息を取 り入れる
注意 (25℃未満)	24～28℃	強い生活 活動で起 こる危険 性	一般に危険性は少 ないが激しい運動 や重労働時には発 生する危険性がある

出典：環境省熱中症予防サイト（一部修正）

<http://www.wbgt.env.go.jp/>

<経口補水液とは>

脱水予防として、水分補給時に経口補水液を飲む
ことも良いでしょう。経口補水液は注射や点滴の成
分とよく似た、水に塩・糖などがバランス良く配合
されたもので、腸での水分吸収がスムーズになって
います。ドラッグストア等で気軽に購入できます
が、緊急時などは家庭で作ることもできます。



出典：かくれ脱水JOURNAL

<http://www.kakuredassui.jp/>



リレー・フォー・ライフ・ジャパン2014川越が開催されます がん相談支援センター

～一緒にリレーをつなぎませんか～

ソーシャルワーカー 鈴木 健太

今年も「リレー・フォー・ライフ(RFL)」が川越市で開催されます。RFLとは、がんについて学び、語り、患者さんやそのご家族を応援する世界共通チャリティーイベントです。会場では、がん患者さんやそのご家族、支援者らがチームを組み、絆を深め合う24時間リレーが行われます。また、がんに関するセミナーや市民の方による音楽ライブなども行われる予定です。

当院のがん相談支援センターは、今年も地域の方々や乳がん患者会「やまぶきの会」とチームを組み参加します。24時間リレーに挑戦し、がんの療養に関する出張相談も行います。どなたでも来場可能ですので、ぜひお立ち寄りください。個人参加もできますので、一緒にリレーをつなぎましょう。

興味のある方はRFL川越事務局、または当院ソーシャルワーカーにお問い合わせください。

リレー・フォー・ライフ・ジャパン

第6回2014川越

開催日時:2014年9月13日(土) 13:00

～14日(日) 13:00

場所:川越水上公園芝生広場

(川越市大字池辺880)

ホームページ: <http://www.rfl-saitama.com>

お問い合わせ先

リレー・フォー・ライフ・ジャパン川越実行委員会

担当 若海さん : 090-4387-6158

埼玉医大国際医療センター

がん相談支援センター: 042-984-4329

リレー・フォー・ライフで集まった寄付金は、日本対がん協会に寄付され、がん医療の発展のために使われます

【昨年のリレー・フォー・ライフ川越の様子】

<24時間リレーを続けます>



<みんなでがんについて語り合います>



<がんに関するセミナーの様子>



<夜にはルミナリエバックに火が灯されます>



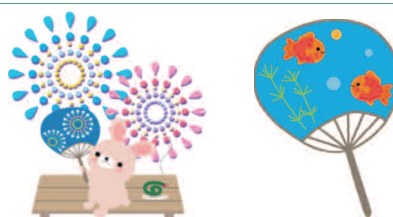
ありがとうメッセージのご紹介とロッカー設置のお知らせです。

医務課

あたたかいお言葉は何よりの励み。

金子 美穂

平成25年に頂いたありがとうメッセージの件数は、1073件でした。多くのあたたかいお言葉をありがとうございました。皆さまの応援を励みに、これからも良い医療をめざします。



患者さんやご家族の方からお寄せいただいたメッセージ

《腫瘍内科・B棟5階病棟へ》

闘病生活に不安と恐怖の中、当病院に入院させていただき、〇〇先生・看護師・スタッフの方々の明るい笑顔・励ましのことが、孤独な私には力強く、ありがたく思いました。たいへんな御仕事ですが、御身体に気をつけてガンバってください。本当にありがとうございました。

《脳血管内治療科 医師・看護師へ》

入院では、いつも先生方の対応とご厚意に家族一同感謝しております。いつも、先生や看護師さんに温かく見守って頂き、今があります。ありがとうございました。大変なお仕事です。お体に気をつけて、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

《小児心臓科 医師・看護師へ》

担当の先生はとても子どもに優しく、丁寧でいつも感謝しています。何でも質問をしやすくて安心しています。また、看護師の皆さんも、一緒に子どもの成長や頑張りを喜んでくれて、本当に嬉しいです。今後もお世話になります。よろしく願い致します。

《消化器外科 医師・看護師へ》

私は4月2日～9日までお世話になりました。お陰様で元気に退院することが出来ました。これも皆様のお陰と感謝致します。有り難うございました。

朝・昼・夜・夜間問わずの大変なお仕事、本当にご苦労様、お疲れ様です。皆様の優しい笑顔と何気ないおしゃべりが何かと落ち込みがちな患者をいやし、安心させ、勇気を与えてくれる気がします。

これからも笑顔と話術で患者さんに勇気と安心感を与え、元気に退院させて下さい。頑張ってください。心から応援しています。沢山のひととの出逢いに感謝致します。



ロッカーを設置しました

かねてより「ロッカーを設置してほしい」とのご要望をいただいていたが、平成26年4月21日より運用を開始致しました。

設置場所は、1階A棟エレベーター横とD棟エレベーター横です。利用料金は300円です。400円投入し、鍵を開けた際に100円戻るシステムとなっております。最大利用期間は、1週間です。

詳細につきましては、ロッカーに掲示してあるご案内をご覧ください。

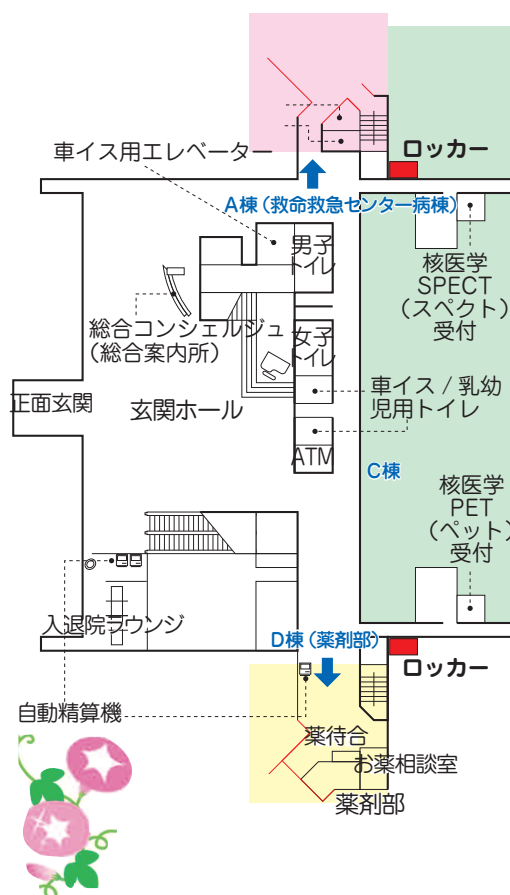
【ご意見箱設置場所】

総合コンシェルジュ [C棟1階]、総合コンシェルジュ裏 [C棟1階]、入退院ラウンジ [C棟1階]、外来コンシェルジュ (画像診断受付) [C棟2階]、救命救急センター受付 [B棟1階]、各病棟食堂

【記入用紙】

入院手続き書類に同封してあります。各センターコンシェルジュカウンター、ご意見箱設置箇所にも記入用紙がございます。

これからも病院機能の向上及び患者サービスに努めてまいります。ご意見ありがとうございました。



6月14日(土)、第4回市民公開講座「がんをもっと知ろうパートⅡ」が開催されました。悪天候に悩まされた前回とは全く逆の好天気、会場の三十周年記念講堂前の広場は涼やかな初夏の風が吹きぬけ、噴水のしぶきには鮮やかに虹が浮かびます。(写真①)

今回の講座もコンサートから始まりました。前回2月の際にもご出演頂いた、吉田直矢氏(ヴァイオリン)、篠崎梨恵女史(フルート)、河崎 恵女史(ピアノ)による「初夏の爽やかな風にのせて～情熱と癒しのコンサート」です。参加の皆様からは、「音楽の難しい事はわからないけどこのコンサートは聴いていて心が落ち着いてきた」「心が洗われるようで優しい気持ちになれた」とのお言葉を頂戴する事ができました。(写真②)

13時15分、小山病院長の開会の挨拶です。「今、皆様には世界でもトップクラスの音楽家の演奏を聴いて頂きました。次は世界でもトップクラスのドクターの講演をお聞き下さい。」(写真③)

今回の講座は、咽喉がんや食道がん等の消化器の入り口近くにできる腫瘍がテーマです。

上部消化管外科の佐藤弘准教授や頭頸部腫瘍科の中平光彦准教授、消化器内視鏡科の真下由美准教授、放射線腫瘍科の加藤真吾教授による医学的な解説や、最新の治療法の紹介が、図表やCG、顕微鏡写真や動画を駆使して行われました。特に、内視鏡による実際の手術の動画は、会場内に大きな衝撃を与え、又、手術・抗がん剤・放射線を組み合わせる最新の治療法には参加の

皆様から高い関心が寄せられました。(写真④)

今回は家族で参加された方も多く、「介護する側とされる側の両方に役立つ話が聞けた」「事例が家族の症状と同じで勉強になった」「今まさに聞きたい事が聞けて不安が減った」とのお声を聞く事ができました。(写真⑤)

又、会場ロビーでは、薬や栄養、リハビリ、医療や福祉の相談、医療機器の展示コーナーも設けられ、参加の皆様のお問合せにお答えする事ができました。寄せられた相談は咽喉がん・食道がんに限らず、糖尿病や肥満対策、寝たきり予防や高額医療費、障害年金と幅広く、テーマにとらわれず皆様のお役に立てた事を喜ばしく感じました。(写真⑥)

終了後にアンケートを集計して見ると、参加の皆様全員が「満足」か「ほぼ満足」を選んでいただき、大変有り難く思う一方、「お酒やタバコ等のがんの原因となるものから自覚症状、受診、治療や手術、その後の生活指導までの一連の流れについて、医学的な事に限らず、受診の手続きや窓口についても教えて欲しい」といった真摯なご意見は、次回に向けての大切な課題として残りました。

最後に、今回の講座を支えて下さった先生方や診療科の皆さん、相談コーナーの業者の皆様、係員の皆さん、そして何より、会場まで御出でくださった参加者の皆様、ありがとうございました。

次回は11月8日(土)、脳卒中をテーマに行われます。皆様のご参加をお待ちしております。



写真①初夏の記念講堂。気持ちの良い一日でした。



写真②医学と芸術のコラボです。



写真③「全くの偶然ですが、最後の曲名は、『誰も寝てはならぬ』でした。」



写真④実際の手術の動画です。



写真⑤大勢の方が熱心に聞いていました。



写真⑥栄養相談の一場面です。

ボトルのキャップ、集めてます

総務課

小さなキャップの大きな力

征矢野 忍



NPO法人(内閣府認証)
エコキャップ推進協会
ECOCAP

源化によって大きな仕事をしてくれます。

国際医療センターでは平成22年4月より、ペットボトルのキャップの回収運動に参加しております。集められたキャップはNPO法人エコキャップ推進協会に引き取ってもらい、同協会は更にキャップを再資源化する企業に売却、その収益が、発展途上国の子供たちに医薬品を送るNPO法人に寄付されるのです。



キャップは43個で1円に換算されます。ユニセフのワクチン単価の資料によれば、ポリオ（小児マヒ）のワクチンは20円、キャップ860個で子供一人の命を助ける事ができます。他にも、BCG（結核）が7円でキャップ301個、はしかのワクチンは95円なので4085個あれば足りるのです。当センターがこの5年間に送ったキャップの総数は約45万2千個、562名分のワクチンとなりました。



又、キャップはゴミとして焼却されると、43個（1円分）で315gのCO₂が発生します。その焼却灰も放置すれば土壌を汚染し、環境に悪影響を及ぼします。当センターの5年間のリサイクルで、3540kgのCO₂を削減できました。

今夏のゲリラ豪雨や今年2月の豪雪のような異常気象も、CO₂増加による地球温暖化がその原因の一つと考えられています。キャップの回収はCO₂の発生を抑え、その売却益は多くの子供たちの命を助ける事ができます。

ペットボトルのキャップの回収運動は、子供からシニアまでの誰でもが参加できる運動です。当センターの取り組みに、皆様のより一層のご理解・ご協力をお願いいたします。

（回収しているのはいわゆる「ポリキャップ」、材質がポリプロピレンのものです。キャップ回収用のゴミ箱に入れて下さい。アルミ等の金属製のキャップは、金属の種別ごとのリサイクルに提出して下さいます様お願いいたします。）



私の時間

救命救急科

オートバイと共に年を重ねて

教授 根本 学



1968年、東京モーターショーに出品されたHONDA CB750 K0、そして1972年秋に発表されたKAWASAKI Z1。多感な時期であった私はこの2台にすっかり魅了されてしまった。目の前にあるそ

れらは憧れであり、また夢でもあった。今もあの頃と同じように身近にあるオートバイは年に数日しか乗れなくても私に心地よい癒やしの時間を与えてくれている。

数年前、「脳トレ」の川島隆太さん（東北大学加齢研究所 所長）が「二輪車乗車と脳の活性化の関係」についての研究結果を発表された。どうやらオートバイ運転中は脳の前頭前野活動が高まる傾向があるらしく、「バイクに乗っている高齢者が妙に若々しいのは、バイクに乗ることが脳機能を高めているから。また、ギア付きのビッグバイクに興味で週1から2日乗ることは認知機能とメンタルヘルスに良い影響がある。」と結論づけている。今までは走

ることが楽しみであったが、一昨年あたりから再開した素人写真との相性も良く、最近はカメラと一緒にうろちょろして月1回くらいの「ぼけ予防」に努めている。



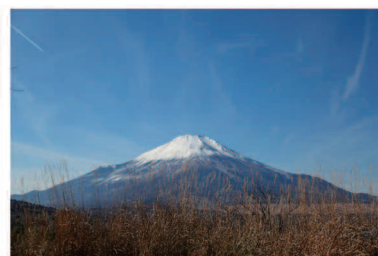
薩埵峠からの富士山と駿河湾



国道136号 土肥温泉に向かう途中で



国道136号 土肥温泉に向かう途中で



山梨県道730号 パノラマ台から

私の時間

精神腫瘍科

山登り再開！

教授 大西 秀樹

若い頃、山登りが好きでよく登っていたのですが、卒業後は忙しさに紛れ全く登らなくなっていました。

しかし、50を過ぎてから身体に良いことをしようと考えたら山登りが好きだったことを思いだし、一念発起して25年ぶりに再開。最初は自宅付近の200mの山に登るとヘトヘトになり、体力の衰えを実感せざるを得ませんでしたが、何回か登るうちに身体も慣れ徐々に体力がついてきました。

去年は、若いころ留学していたカリフォルニアにあるヨセミテ国立公園で山登りをしてきました（写真）。往復11時間、距離にして25キロの山道を歩くのは大変でしたが、頂上の雄大な景色は何物にも代えがたいものでした。

なぜ、山に登るかと言えば、山登りをするときは慎重にルートを選び、最小限の荷物を携えて行動するので自分の周りにある無駄な考えや物に気づきます。そして、気づいた無駄を省くと日常が豊かになるのです。もう一つの理由としては「今を大切に生きる」ことを患者さんから常々教えてもらっていることが強く影響しています。

最近は埼玉の山でハイキングをしています、とてもきれいな山ばかりです。緑が美しい山道を歩くのは気持ち良いですよ。



エル・キャピタン（El Capitan, スペイン語で“キャプテン”の意味）山頂。炎天下、乾燥した山道を6時間歩いたので疲れ切って笑顔なしです。

後ろに見える半分削り取られたような山が2日前に登ったハーフドーム。

次回の国際医療センター市民公開講座について（お知らせ）

第5回目は「脳卒中に負けないパートII」です。

市民公開講座実行委員会

♣ 次回の市民公開講座は、脳卒中センターの主催で以下の日程で行われます。皆様のご来場をお待ちしております。

- ・ 日 時：2014年11月8日（土） PM12:00開場
- ・ 会 場：埼玉医科大学創立30周年記念講堂ホール（日高キャンパス）埼玉県日高市山根1397-1
- ・ テーマ：「脳卒中に負けないパートII」
- ・ 問合せ：市民公開講座実行委員会 TEL：042-984-4638

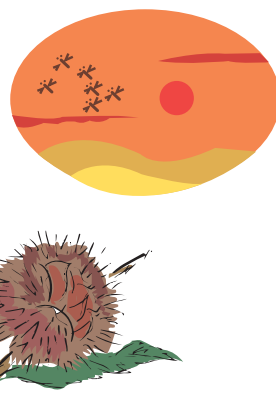
♥ プログラム

- ・ 12:15～「晩秋の風にのせて～情熱と癒やしのコンサート～」
- ・ 13:30～「開会のことば 病院長挨拶」
- ・ 13:40～講演「脳卒中について」（医学の現状と最新の治療法）
- ・ 15:50～「閉会のことば」

♣ 相談コーナー 12:00～16:30

- 1) お薬相談コーナー
- 2) 看護相談・医療相談コーナー
- 3) 栄養相談コーナー
- 4) リハビリ相談コーナー
- 5) 医療機器体験コーナー

◆ 予約は不要、参加は無料です！
お気軽にお立ち寄り下さい。



面会について



【面会時間】

（平日） 午後1時～午後8時

（土・日・祭日） 午前11時～午後8時

上記時間以外のご面会はお断りしております。

【面会受付】C棟1階総合コンシェルジュにて受付をし、面会証をお受け取り下さい。

- * アレルギーや香りに敏感な患者さんもいらっしゃいますので、お花はご遠慮下さい。
- * 小学生以下（12歳未満）のお子様の面会をご遠慮いただいております。

編集後記

管理棟1階の「ラウンジ やまね」の、東・南側の壁面には芸能人のサイン色紙やスチール写真が多数展示されています。その数全部で105枚。2007年の開院以来、幾度もTVや映画のロケが行われ、その際記念に頂いたものです。

都内から近く、交通の便も良く、周囲から隔絶されていて、設備が充実している。画になる風景も多い。当センターが選ばれるのは、そんな理由からでしょうか。

初のTVロケは昭和40年の「白い巨塔」でした。当時はまだ「毛呂病院」、1ビルの外来や放射線、病院長室が使用されました。同番組の内容のため幾つもの大学でロケを断られ、都内に近く、大学病院並みの設備があるので依頼されたそうです。又、「救命 病棟24時」では、病院内以外のロケは横浜市内で行われたため、病院も同市内にあると思ってしまった視聴者も多かったそうです。

最近も一件、ロケの申し込みがありました。TVや映画にどこかで見たような風景があれば、エンディングロールに注意して下さい。

総務課 編集担当 征矢野 忍

紹介・予約制について

当センターは紹介・予約制です

【外来予約センター】（8:30～17:00）

☎042-984-0474 ☎042-984-0475

- * がんセンター受診の際には紹介状をお持ち下さい。
- * 平成25年4月1日より、当院ホームページからがん診療についてインターネットでの予約を開始致しました。医療機関からはもちろん、患者さんや御家族がご自宅から予約可能となります。ご活用ください！
詳しくは、埼玉医科大学国際医療センターHPをご覧ください。
<https://www2.saitama-med.ac.jp/simc/yoyaku/index.php>

埼玉医科大学国際医療センターニュース August 2014 第29号【院内配布用】

編集・発行 埼玉医科大学国際医療センター総務課

住所：〒350-1298 埼玉県日高市山根1397-1

TEL：042-984-4128

発行責任者 小山 勇

発行日 平成26年8月21日

※本紙記載の写真・記事の無断転載および、複写を禁じます。

看護師募集中

学校法人 埼玉医科大学



看護師募集中!!

最も環境の整った大学病院で、
地域に密着した高度な医療に貢献しませんか。

※病院見学、インターンシップ、いつでも大歓迎!! Facebookも更新しています！
詳しくはQRコードより

看護師求人ホームページ <http://www.saitama-med.ac.jp/hospital/nurse>

看護部 Facebook ページ <https://www.facebook.com/smu.nurse>

埼玉医科大学 総務部 人事課

☎ 0120-61-1181

TEL: 携帯の方 049-276-1115

SAITAMA MEDICAL UNIVERSITY